

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]
作成日 平成21年4月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4079700219		
法人名	医療法人 赤池協同医院		
事業所名	グループホーム あおぞら		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡福智町赤池470番地2号 (電話) 0947-28-9280		
評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月25日	評価確定日	平成21年5月7日

【情報提供票より】(平成21年2月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17人	常勤 9人 非常勤 8人 常勤換算	11.8人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1階建ての		1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	(高熱水費)10,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 50 円

(4) 利用者の概要(2 月 27 日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 86.3歳	最低	72歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)赤池協同医院 田中歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあおぞらは、福知山山系を正面に見ることができる小高い丘の上に位置している。玄関周囲は広く、入居者により花が植えられ、風が吹き抜ける気持ちのよい庭がある。建物は天窓や広い窓などにより、自然の明るい日光が差し込む設計となっており、暖かな日差しをいっぱいにあびて、身体と精神によい影響を願う創業者の気持ちを感じることができる。赤池町で地域に根ざした医療を行なっている赤池協同医院を母体としており、職員として3名の看護師が勤務し、24時間体制の医療連携体制が充実しているのが大きな特徴である。開設5年目を迎え、入所者が笑顔を絶やさずに元気で生活を続けることを支援している、明るく開放的なグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の結果については職員全員で確認を行い、昨年4月から約7ヶ月間項目を読み込み、一つずつ取り組んでいる。地域密着型としての理念、同業者との交流、災害対策、ホームの環境整備等の改善が行われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年の改善努力を参考にし、職員全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、地域住民・入居者家族・職員・市の元職員などの参加により、定期開催している。ホームから主に行事予定・行事内容及び反省・災害対策などを報告し、家族からはホームでの生活(畑仕事・作物の収穫・料理等)についての提案や助言、質問などが行われ、率直な意見交換の場となっている。現状として市の担当者の出席があまりなされていないが、今後も働きかけていく予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	職員に直接意見があった場合には、できる限りその場で対応しており、管理者に必ず報告している。また、家族意見はカンファレンスなどで職員に伝達し、共有に努めている。玄関先にご意見箱の設置も行なわれている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	母体の病院が地域に密着しており、その関係を活かした地域との緊密なつながりがある。施設での行事には老人会の方が来訪したり、保育園や中学校との交流も継続して行っている。業者の方々との会話やふれあいも、入居者・職員ともに楽しみとなっている。商店街への訪問や見学、ボランティアの来訪等もあり、地域との連携を大切にしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	「ありのままの自分で居られる場所作り」「家庭の温もりを感じとれる場所作り」を目指し、「お一人お一人にとっての居心地の良さとは何かを常に考えながら、共に地域の方々と一緒に暮らし、明るい毎日を過ごすお手伝いをしてゆきます。」という基本理念と方針を、昨年約半年をかけて、スタッフ全員で創りあげている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念は玄関・居間・事務所(おたずね所)などに掲示されており、毎朝職員で唱和している。理念に基づいた対応に努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	事業所の行事に地域住民や老人会の方々を招待し、交流している。地域ボランティアの訪問や中学校の体験学習の受け入れ、また近隣保育園との交流など、地域の人々とのふれあいの機会を大切にしている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	昨年の評価については、平成20年4月から7ヶ月かけて職員全員で検討し、改善に向けて具体的に取り組んでいる。各項目について、時間をかけて検討した結果を確認することができた。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、地域住民・入居者家族・職員・市の元職員などの参加により、定期開催している。ホームから主に行事予定・行事内容及び反省・災害対策などを報告し、家族からはホームでの生活(畑仕事・作物の収穫・料理等)についての提案や助言、質問などが行われ、率直な意見交換の場となっている。現状として市の担当者の出席があまりなされていないが、今後も働きかけていく予定である。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	毎月のサポーター会議に参加しており、市の介護保険課職員、地域包括支援センター職員等と話し合う機会を持っている。社会福祉協議会など各方面からの参加もあり、情報の交換や共有の場として、有意義な会議となっている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	日常生活自立支援事業や、成年後見制度の内部研修を行っている。玄関にパンフレットも設置しており、必要な場合には活用できるように取り組んでいる。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月1回、生活状況や写真などを家族に送っている。状態に変化があった場合にはすぐに連絡し、対応を話合っている。金銭管理は、領収書の提示と報告を毎月行っており、確認してもらっている。家族の来訪が多く、連絡がとりやすい関係がある		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	職員に直接話があった場合には、その場で対応するようにしている。管理者には必ず報告を行い、意見は職員全員で共有するように努めている。運営推進会議等では、率直な意見交換ができる関係がとられており、運営に反映させるように努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	現状として離職者は少なく、長く勤務できる環境づくりに努めている。やむをえず離職が発生した場合には率直に説明し、十分に会話するなどの配慮をしている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	入居者に対する優しさなどを重視しており、性別や年齢は判断基準となっていない。ありのままの自分でいられる場所という理念があるように、人権については細かな配慮を行っている。資格の取得を目指している職員も多く、管理者は支援している。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	継続して人権教育に取り組んでいる。高齢者虐待や日常生活自立支援事業、成年後見制度の理解などについての研修を行い、職員全体で共有に努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員を育てるための取り組みとして、教育係の新設が行われた。経験豊かな職員の配置により、新人職員やパート職員にも、段階に応じて学習する機会を持てるよう取り組み始めた。また内部研修・母体病院での研修・外部研修などに積極的に参加している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	昨年6月にグループホーム協議会が設立され、初回から参加している。協議会はそれぞれの抱えている問題点など話し合う場となっており、今後交流が活発に行われる予定である。積極的に参加して活用していきたいという管理者の意欲を感じることができる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	現在空き部屋がないために体験入所ができる状況にはないが、自宅訪問や、家族を含めた話し合いを充分に行い、安心してサービスが開始できるように、馴染みの関係づくりに努めている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	畑仕事や調理方法、味つけの仕方、やけどをしたときの対処方法など、入居者に教えてもらうことが多くある。お互いに「ありがとう」といえる関係が構築されており、日常生活の中で、入居者と職員と一緒に活動する楽しそうな姿がみられた。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの趣味や楽しみを把握するように努め、自由に生活できるように支援している。意思の疎通が困難な方は、行動や表情などから本人本位に話し合い、適切な援助ができるように心がけている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人・家族の意見を大切にしながら、ケアカンファレンスでは職員・関係者の意見を参考にし、本人本位の介護計画作成に努めている。		個別性を持った具体的な介護計画が作成され、課題となることが一つ一つ項目として挙げられており、詳細な計画となっている。短期の目標をもっと身近なものにすることで、評価しやすく、次の目標も立てやすくなると思います。
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヵ月毎の見直しが行われており、状況の変化にも対応している。身体状況、精神状況などが詳細に記入された計画となっており、一人ひとりの思いや意向の把握に努める姿勢を感じることができる。		医療連携の中で、看護師の計画と介護計画が連動すると、さらに良い計画になると思われます。今後の取り組みに期待します。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	看護師が3名勤務しており、母体病院との医療連携が充実している。病状の変化に早期に対応することにより、重症化の防止に努めている。通院は家族での対応が困難な場合には受診介助を行っており、入居者・家族の安心に繋がっている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	本人・家族の希望により、馴染みのかかりつけ医との関係も大切にしながら、協力医療機関による週1回の往診や緊急時の対応等、継続的に適切な医療を受けられるように支援している。		

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	医療連携体制が充実しており、本人・家族の意向を大切にし、話し合いを重ね、かかりつけ医や協力医療機関との連携により、重度化や終末期の支援に取り組んでいる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの人格を大切にすること、プライバシーを侵害しないように対応すること等を、日々心がけている。個人ファイルは名前が見にくいように配慮しており、鍵付きの棚に保管されている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	ある程度スケジュールは決めているが、個々の自由な生活を支援することに努めており、柔軟に対応している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	ランチョンマットにお気に入りの箸や湯飲みを並べ、自分の食卓を演出している。入居者の食事の時間に合わせて、職員も一緒に食事を摂るようにしている。本人の希望や能力により、準備や後片付けに参加がみられた。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	週に3回の入浴日を基本としながら、できる限り希望に沿うように柔軟に支援している。入浴を拒否する方には、様々なアプローチを考えて、少しでも入浴できるように工夫している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	縫物や洗濯物干し・取り入れ、調理の準備や園芸など、個々の希望や能力により、役割や楽しみごとを作り出す働きかけを行っている。好きなことに取り組むことで体調が落ち着くこともあり、支援の重要性を認識している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	買い物や散歩、週に2回のリハビリ通院など、希望に応じて外出するようにしている。敷地内は自由に出ることができるが、敷地外は急な坂道になっており、買い物などは車で出かけている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関や窓には施錠していない。安全に配慮しながら自由な暮らしができるように支援している。現在チャイムの設置を検討している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回の避難訓練を行なっている。昨年は消防署や医療機関の協力を得て、人工呼吸・AEDの使用方法などの研修も行われている。		夜間を想定した訓練も含め、災害対策には地域との協力が求められており、運営推進会議等での働きかけに期待します。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人の管理栄養士による献立があり、それに基づいて調理を行なっている。食事摂取量や水分摂取量なども確認されており、栄養状態の観察は注意深く行なわれている。家族の協力を得て居室内の冷蔵庫なども確認し、差し入れ等の状況を把握している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム あおぞら

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	天窓から自然の光が明るく差し込む居間があり、利用者が集いやすい空間がある。玄関ホールには、たくさんの花が飾られており、季節を十分に感じることができる。光は脳を活性化するという医師の助言により、廊下などの光が少ない場所には昼間でも電気がつけられている。居間には畳の間やソファがあり自由に好きところで過ごせるように配慮されている。匂いや音に対して配慮する職員の姿勢を確認することができる		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室入り口には、笑顔の写真が入った名前プレートがかけられている。室内は入居者の個性を活かした飾りがあり、自宅で使われていたベッドや筆筒が配置されている。日当たりがよく、使い慣れた馴染みの物に囲まれて、居心地よく過ごせるように工夫された空間となっている		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			